

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

ウルキオラ再び

【作者名】

綺羅璃

【あらすじ】

ウルキオラが一護との戦いで消滅した続きです

第1話

俺は消えてゆく・・・心という物に早く気付きたかったな・・・

* : : ° O ° . : : ° * : : ° O * : : ° . : : ° * : : ° O
° . : : ° * : : ° O ° . : : ° * : : ° O

私は、如月星月（きさらぎせな）

目の前から過ぎ去る時間ー死にたいとは思わない、だが生きたいとも思わない・・・

ただ胸を痛める日々

私は、この世界に生まれて正しかったのだろうか。。

私には、この世界で幼いころから色々な物を見て来た。

大きな化け物、喰われる人間、化け物になる人間、黒い服を着た人間・・・

全て無視し続けた・・・

私は、ひたすら無視をした、他のゴミの笑い声、いつまで経っても救われない・・・

ーコンコンー

「先月の家賃なんですけど・・・あの・・・」

「・・・」

「尸魂界へ連絡を取るよ」

近づいて来る・・・

今までと違うこの感じ・・・

私はどうもー見ないふりをするしか・・・

「貴様のこの霊圧は何だ？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「人間とはいえ、この霊厚で我らが見えぬ筈ない」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「何も答えぬ気が・・・・・・・・・・・・・・・・」

「何だ??」

グオオオオオオオオオオオ

大きな白い物で体が覆われていく・・・

何この力・・・

何この感じ・・・

「・・・・・・・・死神だと」

「朽木隊長、更木隊長、涅隊長、穿界門の用意は出来た」

「この子を尸魂界へ連れて行く許可もでた、さあ我々は行くとするか

「！」

・・・・・・・・えっ

ちよつと今ー・・・

「貴様を今から尸魂界へ連れて行く、来い。」

「・・・・・・・・」

ーガシ

(何よっ)バンバン

私はひたすら暴れたでも抜けだせない、強い力っ!!

「縛道の六十一六杖光牢。」

何この6つの光は————動けない!!!???. . . 私の格好もあの人達と同じ!!

「大人しく来れば良いだけのこと」

「. . . 朽木隊長やり過ぎでは. . .」

「面倒だ。」

ソウルソサエティに連れていくとか話した白髪の人が近づく. . .

「そんなに嫌がらないでほしいな、君を思ってるんだ」

「前に、一護君が人間から死神になってな、」

「. . . 分かってくれるかな？」

「面白いぜえ 餓鬼!! いい霊厚だっ! しかも死神になるなんてなっ」

「眠っていた死神の力が急激に霊厚が上昇することで動かされたんだよ」

「. . . ソウルソサエティに行く。」